LUZ の熊野古道案内

2005 年 10 月　上

10 月 1 日　～　12 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００５年 10 月

10 月１日　熊野古道の土産　２
10 月２日
10 月３日
10 月４日
10 月５日
10 月６日　番外　吉野室生村　龍谷神社　１
10 月７日　番外　吉野室生村　龍谷神社　２
10 月８日　番外　吉野室生・龍穴神社　３
10 月９日　番外　吉野室生村　日本人の原風
10 月１０日　熊野路の秋　木本祭り
10 月１１日　熊野路の秋　木本祭り２
10 月１２日　熊野路の秋　木本祭りと昔の木本

2005年　10月　01日

熊野の旅　熊野古道の土産　２

熊野地方には本当にこれと言った民芸品などありませんね。

雪国のように冬場に閉じ込められる地方では民芸品は発達したようですが、このあたりは中途半端だったのか不器用だったのか…

アイデア的に開発された民芸品が氾濫する時代です。それに流通システムが変って、生産地と販売地の不一致が当たり前になっています。

全国のお土産の内で民芸・小間物類に関しては広島物といわれる広島経由の物が結構多いですね。手間の掛かった小物は東南アジア発広島経由全国のみやげ物屋のコースが多いですね。

昔、海外旅行が流行りだした頃、ハワイで買った土産がほとんどMADE IN JAPANだった、なんて話がありますが、国内もそうなりつつあります。

外人さんのようにスーベニールとして名前の入ったものを買い集めるのなら、それで良いのですが、少し疑問を感じる時があります。

名前入れしたキーホルダーやステッカーがその町で作られているなんて誰も思いませんが、饅頭、せんべい、漬物、干物なんてその町、若しくは近郊で作られていると思いますよね。

みやげ物に関し、表示は『販売責任者』の表示で構わないものが多いのです。

それというのもきちんと『産地表示』するとみやげ物でなくなるからです。

秋田県産の漬物が奈良県特産になったり・・・名古屋産のせんべいが三重県土産になったりでは…

みやげ物が売れなくなってきている時代です。それでも、みやげ物は存在します。

何を土産に買うか…非常に難しい問題です。

ガイドブックももう一つ当てになりませんね。各地のみやげ物コンテストとかに出したものが載っていて、本当の特産が載っていないとか…

特産品って本来あまり数が無くて売店には並びにくいものです。

漬物でもあまり体裁の良い包装にはなっていませんね。

干物でも裸で売っていて、新聞紙に包んでくれるところの方が美味しかったりします。

熊野では立派な包装の高菜漬はほとんどありません。

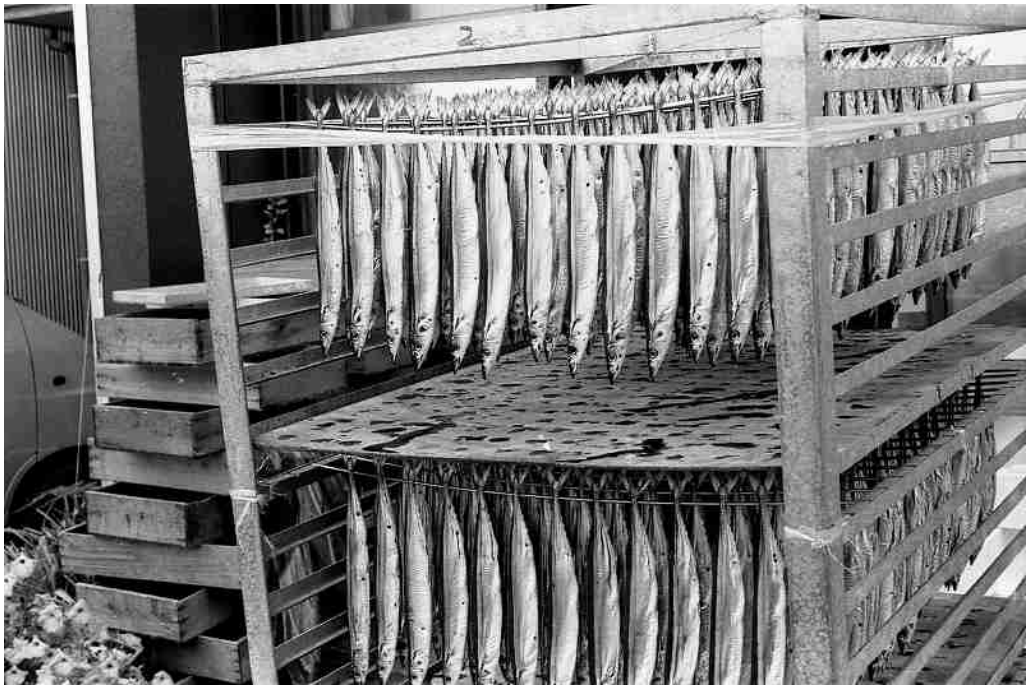
きちんと詰め合わせた干物を店先に出している魚屋は１軒だけですね。でも、干物はどの魚屋にもあります、当然干物の無い日がある魚屋もあります。地場物、天日干しだとそうなります。

何をどう買うか・・・

熊野でなら『高菜漬』『サンマの丸干し』『キスの丸干し』『生節』『サンマの寿司』あたりは間違いなく熊野産です。

お土産のお菓子も熊野産が多いですね。みやげ物のせんべいなどを紀州一帯に出荷するほどのメーカーがありますからね。

最近ではよそから来られた陶芸家や染物師が住み着いて居られますので、その方々の作品も間もなく熊野特産とかになってゆくでしょうね。こういうものは探すのは難しいですね。
やはり決まりきったものになるでしょうかね。



by **je2luz** | 2005-10-01 12:24

2005年　10月　06日

熊野の旅　番外　吉野室生村　龍谷神社

少し出かけていましたので、更新がお休みになっていました。

奈良県宇陀郡室生村・・・ほとんどの人は女人高野と呼ばれる『室生寺』を思い浮かべ、室生に行っても室生寺に参拝して終わりと言う事が多いと思います。
この室生寺のすぐそばに、同じように平安時代には祭られていた『龍穴神社』があります。
名前の通り、竜・竜神に関連する神社です。

この神社の来歴は室生寺より古いとも言われ、室生寺の守護の神社とされていた時代もあるようです。
高野山には『丹生都比賣神社』（にぶつひめ）があるように、昔は当たり前のように神社とお寺が一体化していました。古来の信仰と融合することで仏教は日本に溶け込んで行ったのでしょう。

カメラは　イコフレックス・・・説明はカメラの写真をクリック

　この神社の裏手の谷には洞穴があり、平安時代と同様『雨乞い』の神事が行われるようです。

by **je2luz** | 2005-10-06 12:14

2005年　10月　07日

熊野の旅　番外　吉野室生村　龍谷神社 2

この龍穴神社に限らず、神社と言うものは質素なものが多いです。

平安神宮に代表されるようなド派手な物もありますが、割合と地味なものが多いですね。

御神体も鏡や剣であったり、天然の石で在ったりしますから、社殿も大きい必要が無いのでしょう。

お寺は檀家衆や信者が本堂に上がりこんで拝んだり、拝んでもらったりしますから、そのお寺の檀家を収容できるように大きな本堂を構えます。それにひきかえ神道では信者とか氏子は神に近づくものではなく、基本的に神官が神事を行う場所と捉えているようで、拝殿も閉鎖的で小ぶりの物が多いようです。

この龍穴神社の社殿も小さなものです。きちんと整備された敷地に建っては居ますが、村の鎮守様並です。

本来の神域は裏手の山にある洞穴でしょうね。社殿は前宮のようなものでしょうか。

平安時代から続いてきた神社だそうですが、江戸時代くらいに結構放置されていたのではないかと思います。

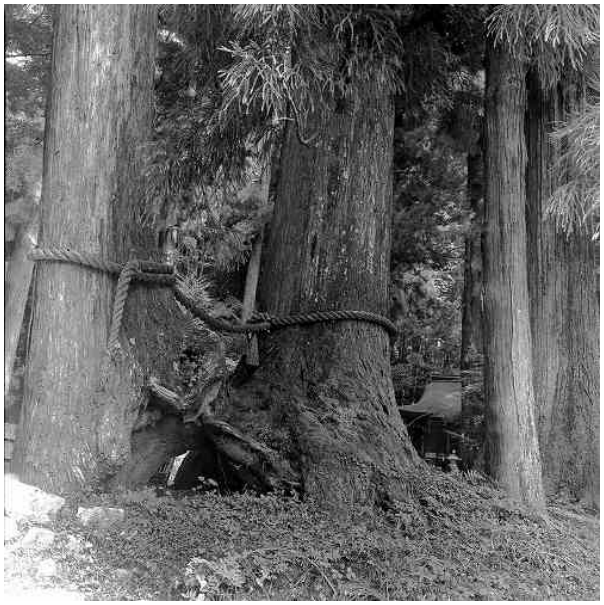
そう感じるのは下の写真のような社殿を中途半端に遮る所に杉の大木が立っているからです。ど真ん中でもなく、社殿には非常に目障りな場所です。回りの大木は残されるのもですが、この位置であれば、若木以前に小苗で抜かれるか移されるかするはずです。

お寺でも神社でも途中で寂れて再興される事が結構多いですからね。
お寺に比べ、鎮守様でさえ民衆とのつながりが薄いのが神社ですから、寂れる時代があってもおかしく無いですね。
しかとは知りませんが、社殿前の杉の木を見てそう思いました。
カメラは　イコフレックス 2aRemake　by **je2luz** | 2005-10-07 11:11

2005 年　10 月　08 日

熊野の旅　番外　吉野室生・龍穴神社　３

日本土着の宗教観は多神教です。「八百万の神」と言う思想です。
全てのものに神を見ていたのです。
それ故に、息を呑むような巨岩・巨木などには神の化身を見、洞窟などには神の住処を見たのでしょう。



都から見ると辺地の室生の地の洞穴に龍の住処を見出したのが始まりでしょうが、今ではこのように巨木が林立する神域が出来上がっています。そして、その中の何本かはしめ縄が廻され御神木になっています。

比翼の鳥、連理の枝・・・と言いますが、二本の木が融合したものは信仰の対象になることが多いですが、ここにも根の部分が癒着した巨木があり、当然のことのように御神木になっています。

かなり離れて立っている二本の杉の根が接木したように一本になっています。場所が場所なら縁結びの神としてもてはやされるのでは無いでしょうか。特に何もいわれないらしく、ひっそりと立っています。

ここの神社の良さは、御神体でも社殿でもなく、これらの古木が自然に作り出すどっしりとした雰囲気でしょうね。おみくじやお札を売る売店のような俗世間も無く、初穂料をよこせと言わんばかりの賽銭箱も無い、田舎の鎮守さま的な物です。室生寺とは対照的な素朴な良さです。

室生に来られたら、室生寺に寄られなくてもこの龍穴神社に立ち寄って、一休みしてみてください。山深く分け入った古の室生を感じられると思います。

カメラは**イコフレックス 2aRemake**　by **je2luz** | 2005-10-08 11:46

2005 年　10 月　09 日

熊野の旅　番外　吉野室生村　日本人の原風

日本人の持つ原風景は色々あります。

日本人にとっての『ふるさと』『田舎』とはこんなものだろう・・・という雰囲気が室生村にはあります。中心部などはほんの少しその雰囲気を残したままで近代化？していますが、山間部に入ると、絵本に出て来る田舎の風景そのものです。

寒い、雪も降る室生の山奥では家の形も北国のものです。

急傾斜の大きな屋根、元はかやぶきであったものが、ご多分に漏れずトタンぶきにされていますがほとんど全戸がそのままで山間に点在する地域もあります。

室生寺・龍穴神社からほんの１５分ほど山間に入った田口地区などはその典型です。

天に登るような急な坂道沿いに家々が点在し、谷の向こうの家はすぐ前に見えても谷底に下りなくては行けないのですごく遠い…

無粋な別荘なども立っていない純粋な田舎です。何時までこの風景が守られるか分かりませんが、

日本人の原風景…一度も見たことの無い風景なのになぜか懐かしい…が残されています。
国道を外れると道も狭く、冬季になると凍結の恐れもあり観光地ではありません。本当の居住地区ですので、家の中を見るなど不可能です。時間が余れば…と言う感じです。

by **je2luz** | 2005-10-09 11:37

2005年　10月　10日

熊野の旅　熊野路の秋　木本祭り

熊野路に秋が来ると、全国各地と同じように秋祭りがあります。
元々、８カ町村半合併したところで、おまけに地形が複雑なので、祭りの数も沢山あります。鎮守様の数だけでも１０個ではきか無いでしょうからね。
たった二万の人口でそれも老齢化指数では全国の先端を走る３０％をはるかに越える状態では、それぞれの規模が小さくなってきています、
その中では、規模的には一番大きいのが『木本祭り』です。
新出町・栄町・新田・親地町の４町からの出し物と神社の御輿が木本町内を巡回します。
この祭りは非常に時間がかかるので困り物です。朝８時前から騒ぎ出し、御輿が神社に帰るのが夜中の１２時などと言うものです。もっとも、各町内は自分の分が済め

ば終わりですが、御輿は海に入れて潮を掛け清めて、波打ち際を５００ｍほど進んで神社まで帰ります。
　へべれけになった若い衆が担いで砂利浜を行くのですからまるで進みません。砂利浜は地道の３倍も余って疲れますからね。
　昔は、街中も担いだのですが、今では車輪をつけて山車になって引っ張られます。一時は浜での潮掛けの後も道に戻されて引っ張ったのですが、何とか帰りの道だけでも担ぐように戻しましたが、肩を使ったことの無い世代ですから、図体ばかりで進まなくなりました。
　京都の祇園さんでさえがアルバイトの学生さんに頼らないと動かなくなっていますが、田舎では尚更深刻です。

　木本祭りを皮切りに毎週どこかで祭りがあります。山間の素朴な祭りで、伝統的に受け継がれているのは『神楽』に獅子舞位でしょうかね。
　町場の祭りに比べ山村の祭りは地味です。本来の豊作感謝の形なのでしょうね。
by **je2luz** | 2005-10-10 13:13

2005 年　10 月　11 日

熊野の旅　熊野路の秋　木本祭り２

　木本祭りが盛んだった私が子供の頃は大変な賑わいでした。
　木本町の人口も今の倍以上ありました。
　町内の木本小学校は各学年５クラス、全校で１５００人も居ました。今では一クラス２０人ほど全校で１３０人ほどになっています。
　各出し物は御輿を除き子供参加型になっています。
　浦安の舞を舞う女の子は小学６年生を使ってきていますが１００人を超す女生徒の中で５人だけ･･･大変な競争率で名士と言われる家の子だけが選ばれていました。今では確保するのがぎりぎりです。

今日の写真の出し物は『ヨイヤ』と言われるのもで、「ヨイヤ」の掛け声と共に子供を乗せた御輿を差し上げ傾けるものです。

栄町という町内のものですが、この乗り手の稚児さんも榮町内だけで確保できなくなってきています。

御輿も浜に出てから担ぐように復活されましたが、近年、このヨイヤも辻辻できちんと昔どおりの練をするように戻されました。しかし、近隣からも人集めする御輿は何とかなっても

小さな町内で維持するヨイヤなどは大人が年を取って大変なことになっています。あと何年かすると又リアカーに載せて巡行するようになるのかも…by **je2luz** | 2005-10-11 11:28

2005 年　10 月　12 日

熊野の旅　熊野路の秋　木本祭りと昔の木本

　木本祭りの出し物は、朝一番に南の端の『新出町』の「だんじり」が出発し、まっすぐ神社に向かわず遠回りをして、『井筒町』の「子供御輿」。『栄町』の「よいや」、『新田』の「元宮たいこ」、『親地町』の『ロッポ』を順に後に従えて神社に入ります。狭い町内を半周でほぼ４時間もかかります。

　神社に入って、お昼になりますが、その間に『新出町』が「獅子舞い」を奉納します。他の町内は特に行事はありません。

　午後になると神社直属の御輿が出番になります。

　この行列の出発が午後一時頃、『新出町』が先導して。次に御輿が付く形で新出町の『稲荷さん』に向かいます。その道中５００ｍくらいだと思いますが、先頭の新出町が着くのに二時間、最後の新田が着くのは四時間後です。なんと時速２００ｍほどの速度です。

　昔はこの間に『きれいどころ』の道中踊りが賑やかさを与えていたものですが、とうの昔に芸者衆などは消えています。

　なぜ時間がかかるか？それはあちこちにある『宿所』と言われる振る舞い所に一時停止するからです。そこでは当然のように振舞い酒がふんだんにあります。この宿所は午前中に通る道筋にもありますから、お昼までにも随分お酒が入るのですが、午後のこの５００ｍの間に今年で５箇所の宿所があります。多い時は７箇所あったものです。

　この宿所での休憩が時間のかかる原因なのです。酒飲みには良いのでしょうが、子供と下戸には退屈な時間です。

　交通渋滞と同じで一つが滞るとその影響は倍倍ゲームになるので７グループほどが抜ける時間差が２時間にもなるのです。

　昔の木本町の構成の関係で木本神社と稲荷さんを結ぶ祭りコースが出来たようです。

　面白いのは午前中に新出町が巡航して迎えに行く町には出し物はあるのですが、午後の御輿が通る木本町の本町通りには宿所以外の出し物が無いのです。コースには１丁目、二丁目。三丁目、関船町、布袋町と５町内あるのですが。全て何もありません。

　今の子供は余り祭りを楽しみにしませんが、昔はこの何も無い町内の子はよその町内の出し物の綱を引くしかなかったのです。前に書きましたように、その頃は町内の小学生が１５００人も居て綱の隙間も無かったのです。

　この町内で育った人は『祭りは見るもの』と言う感覚の人が多いですね、それも当然でしょう。

　御輿が一旦入る新出町の稲荷さんで新出町はお役目御免で解散するのも面白いですね。神社までお御輿、御神体を迎えに行くのに、帰りは御自由に…ですからね。

　もっとも、付き合っていたのでは真夜中になりますから困りますが、各町内もここでの休憩のあとは自分の町に引き上げてしまいます。

　何とも、神様も片道は大歓迎、帰りは見送りなしと言う不思議なお祭りです。稲荷さんに御神体を移しておくわけではないのですが…

新出町・稲荷さん

カメラは フォクトレンダー・ビトー２ by **je2luz** | 2005-10-12 13:01